

総合単元構想表

第2学年 総合単元的な道徳学習 単元構想表 (10～12月)

総合単元名	ともだちっていいな
ねらい	友達の大切さに気づき、仲よく助け合おうとする心情を育てる。

日常生活	地域・家庭 心のノート	教科・道徳・特別活動	児童の意識
朝の会 帰りの会 係活動 当番活動 朝のスピーチ	クラスの約束 (Be-ing)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <学級活動> クラス目標をふりかえろう 自分にできることは何だろう </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <生活> フェスティバルの準備をしよう </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <国語> お手紙 </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <道徳> 「大きいリンゴ小さいリンゴ」 2- (2) 思いやり・親切 相手の気持ちを考え、自分の思いや考えだけでなく相手の思いも大切にしようとする態度を養う。 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <生活> フェスティバルを成功させよう </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <学級活動> A F P Y 活動 </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <生活> フェスティバルを振り返ろう </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <道徳> 本時 「ゆっきとやっち」 2- (3) 友情 友達の気持ちを考え、お互いに仲よく助け合おうとする態度を養う。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <学級活動> がんばったね集会を計画しよう みんなで協力して楽しい会になるために、学級会をひらこう </div>	・皆が『なかよく・あかるく・やさしく』あるために自分にできることは何だろう。 ・友達にありがとうといってもらって嬉しいな。自分も誰かに言ってあげたいな。 ・みんなに喜んでもらえるまつりにするためには友達と協力して準備をしていくことが大切なんだな。 ・自分の思いを伝えることだけでなく、相手がどう思っているかを考えることが大切なんだな。 ・みんなの持っているアイデアや意見をだしあうといろいろなことができるね。 ・友達に助けてもらって嬉しいな。 ・一年生やおうちの人に楽しんでもらえたかな。 ・友達と一緒にだからやりとげられたんだ。 ・友達ってやさしいな。友達っていいな。 ・友達のために自分ができることをがんばってみよう。 ・これからも友達と力を合わせているんなことをしていきたいな。 ・友達のがんばったこと、自分のがんばったことを見つけよう。
グループ学習	学級通信 ゲストティーチャー		保護者の参加・協力
振り返り	心のノート p 40・41 参観授業		
学級会	学級通信		

小学校

第2学年 総合単元的道徳学習指導案

1 総合単元名 ともだちっていいな

2 単元設定の理由

本学級は男子7名、女子10名、計17名の児童からなる。子どもたちは、明るく活動的な反面、学習・学級活動などで、集中力に欠け、落ち着いて話を聞くことができない時もある。また、積極的に友達とかかわりをもとうとするが、自己中心的な言動による衝突は日常的に起こっており、少人数ではあるが、一人一人の心の結びつきはまだ弱いように思われる。子どもたちが落ち着いて学校生活に取り組むために、クラスには自分以外に16人の仲間がいることを意識し、互いの思いや願いに耳を傾けようとする姿勢が大切だと考える。その上で互いのよさや協力して活動することの素晴らしさに気づき、共に伸びていこうとする学級集団づくりを目指したい。

2学期の後半には生活科『みんなでつくろうフェスティバル』がある。子どもたちは1年生の子どもたちやおうちの方を招待し、皆に楽しんでもらえるような祭りを、グループで協力しながら、自分たちの力で作り上げていかななくてはならない。この体験活動を他の教科や学級活動と関連させることで友達と助け合うことの大切さを知り、協力することによって様々な可能性が広がることを実感できるのではないかと考え、この単元を設定した。

そこで指導にあたっては、各教科の中でも子どもたちが友達と協力して課題を解決していく活動を取り入れていき、互いのよさに目を向け、協力していくことのすばらしさ・大切さを実感できるようにしたい。そこで生活科の『みんなでつくろうフェスティバル』の導入部分で、田布施さくら保存会の方から春のさくら祭りに向けてきれいな桜を咲かせるための年間を通じた桜の保護の話聞き、その心情にふれることで、喜んでもらえる祭りにするためには、皆で協力して準備をしていくことが大切であることを実感させたい。

また、学級活動において「仲間づくり」を目的とした教育手法AFPYを取り入れたい。AFPY活動は「一人では困難な課題であっても、集団が協力すれば解決できるという体験を通して温かい集団を作る」ことをねらいとした、グループチャレンジによる課題解決活動である。この活動は課題を解決することがねらいではなく、その過程を重視し、活動している時の子どもたちの言動や仲間とのかかわり方を指導者が把握し、それを活動後の振り返りに生かし、日常生活の中に反映していくことを目的としている。課題を解決していくために話し合い、挑戦する中で友達と仲よく助け合い協力していくことのよさを体感させたい。

3 総合単元の目標

友達の大切さに気づき、仲よく助け合おうとする心情を育てる。

5 本時の指導

(1) 主題名 助け合い 友情 2-(3)

(2) 資料名 「ゆっきとやっち」 文部省道徳教育推進指導資料

(3) 主題設定の理由

- これまで子どもたちは、国語科『お手紙』、生活科『みんなでつくろうフェスティバル』、学級活動『A F P Y活動』などで、互いの意見やアイデアを出し合い協力していくことで様々な可能性が広がっていくこと、また協力するために必要なルールは何かについて考えてきた。また、2学期の学級活動で、1学期にみんなで決めたクラス目標『なかよく・やさしく・あかるく』という目標を一人一人が守っているか、守ろうとしているかを各自がもう一度振り返った。そして自分が守れていないことはどんなことか、守るために自分ができることは何かを一人一人が手のひらに書き、自分の一年間の目標の周りに貼っていくとともに、出た意見をまとめ、目に見えるように掲示した。一方で子どもたちに、友達にありがとうといってもらい嬉しさ、そして相手のよいところを見つける喜びを知り、友達といることの温かさを実感してほしいとの願いから、教室に「ありがとうの木」を設置した。子どもたちは、「ありがとう」に限らず、「がんばっているね。すごいね。」「いっしょにやろうね。」など互いにうれしいと感じる言葉を贈り合うことで、「カードをもらってうれしかった。」「友達にカードを書いてあげて自分が優しくなれた気がした。」と互いに励まし合うことの素晴らしさを感じてきている。しかし、時には自分の思いが先行してしまい、相手の言動を責めてしまう場面も少なくない。
- 友達とは、話をしたり遊んだり、一緒にいるだけで楽しい存在である。また、互いに励まし合うことで困難を乗り越える勇気を与えてくれる存在でもある。しかし、自分に願いや思いがあるように、相手も願いや思いをもっている。自分の思いを主張するだけでは、円滑なそして継続的な友人関係を作っていくことはできない。友達が、時として自分と違う考えや行動をとることがあっても、相手の思いを理解し、助けようとする気持ちが大切である。友達に助けてもらう喜び、そして友達を助けてあげることで自分の心も豊かになっていく素晴らしさを子どもたちに知ってもらいたいと考え、この主題を設定した。
- 本資料は、みつばちの子どもたちが楽しくあそんでいる時に、仲間の中で誰が早く飛ぶことができるかを比べることになり、その競争の中でみつばちのゆっきが、困っているやっちを助け、優しく励ますという内容である。

思いやりとは、相手のことを考えることから始まる。自己中心的な考え方をし、あまり友だちを大切にしようとしなかったやっちが、ゆっきの優しい心にふれ「友だちっていいな」という気持ちを深めていく様子、また自分も勝ちたいけれどやっちをおいていけないゆっきの心の揺れに視点をあて、人は一人で生きているのではなく、誰かの力を借り互いに助け合うことでよりよく生きていくことができることを知り、また相手を思いやることの大切さに気づかせたい。
- そこで指導にあたっては、先に行った協力ゲーム『こおりお手玉』を振り返り、本資料を読み、互いに協力する素晴らしさ・喜びを再認識させたい。また、ペープサートを用い、発問に沿って区切って資料を提示することで、子どもたちがゆっきとやっちの心の移り変わりについて自分のこととして考えていけるようにしたい。並んで飛んでいく最後の場面では、二人の気持ちを書く吹き出しプリントを準備し、友だちと助け合うことの素晴らしさをそれぞれが自分の言葉で表現できるようにしたい。

(4) ねらい

やっちを助けるゆっきの気持ちとゆっきに助けてもらうやっちの気持ちを考えることを通して、互いに仲よく助け合おうとする態度を養う。

(5) 準備

- ① ペープサート ②吹き出しプリント ③こころのノート

(6) 展開

過程	学習活動・内容	予想される児童の反応	指導上の留意点	備考
気 づ く ・ っ か む / 深 め る	1 先だっで行ったアクティビティ「こおりお手玉」の感想を発表する。 ・ 体験の想起 2 資料「ゆっきとやっち」について話し合う。 ・「いくらがんばったってぼくの方が早いさ」といわれた時のゆっきの気持ち ・ゆっきの迷う気持ち	・友だちに助けてもらって嬉しかった。 ・助けようとして、自分のお手玉が落ちてしまった。 ・くやしい。 ・くらべっこなんかやりたくない。 ・やっちになんか負けないぞ。 ・あんなに自慢していたやっちなんか助けたくない。 ・助けていたら自分も遅くなってしまう。 ・やっち、苦しそうだな。	○アクティビティの中で子どもたちが感じた助け合う喜びや、迷いを想起させたい。 ○相手のことを考えない言動が、相手をどんな気持ちにさせるかを考えさせるとともに、自分たちの生活の中でも起こっていることに気づかせたい。 ○今までの自己中心的なやっちの態度に対する反発とかわいそうだから助けてあげたいという心の葛藤をつかませたい。	準備①
	・ゆっきはどんな思いで「やっち、いっしょにいこうよ。」といったのでしょうか。 ・助けてあげるときのゆっきの気持ち ・並んで飛んでいくゆっきとやっちの気持ち	・やっぱり助けてあげよう。だってゆっきは本当に苦しうだもの。 ・一人でゴールしても嬉しくない。一緒にゴールしようよ。 ・友だちだから、やっぱり置いていけないよ。 (やっち) ・あんなことを言ったのにゆっきはぼくを助けてくれるんだね。ありがとう。 (ゆっき) ・やっぱり助けてよかった。 ・遅れてもこの方が気持ちがいいや。	○導入で振り返った自分の体験をもう一度思い起こさせ、ゆっきの気持ちをより共感的にとらえることができるようにする。 ○たとえ自分が不利になっても、友だちを助けることが自分の喜びになるのだという前向きな気持ちでとらえさせたい。 ○吹き出しプリントにそれぞれが自分なりに思いをまとめる。 ○役割演技を通して助け合うことの喜びと感謝、そして相手のことを思いやることの大切さを感じ取る。	評価① 〈発表〉 準備②

見 つ め る ・ 広 げ る	3 自分も友だちに助けてもらったり、友だちに励ましてもらったりした経験振り返る。 ・思いやりのある言動の大切さ	・友だちに「ありがとうカード」を書いてもらって嬉しかったよ。 ・あきまつりの時、友だちに「一緒に作ろう」と言ってもらって嬉しかったよ。	〇こころのノートに友だちにかけてもらった嬉しかった言葉を書くことで、友だちと仲よく助け合っていくために、どんな言葉や行動が大切かを考えさせる。	準備③ 評価② 〈こころのノート〉
--------------------------------------	--	--	---	-------------------------

(7) 評価

- ① やっちを助けようとするゆっきの気持ちを考えることを通して、友達の苦しさや思いを理解し助けようとする事の大切さに気づくことができたか。
- ② 友達の大切さに気づき、相手のことを考えて思いやりのある言動をしていこうという意欲をもつことができたか。

6 考察

(1) 関連的指導について

本実践は『みんなでつくろうフェスティバル』を中核に位置づけて構成した総合単元的な道徳としての取り組みである。「ともだちっていいな」というテーマをもとに友達と助け合うことの大切さを知り、協力することによって様々な可能性が広がることを実感できるのではないかと考え、この単元を設定した。

① 教科学習との関連

あきまつりの準備に先立って、町さくら保存会の方の話を聞き、子どもたちは普段何気なく見ている桜に多くの方の力が注がれていることに驚いていた。そして、喜んでもらえる祭りにするためには、いろいろな工夫や努力、そして仲間との協力がいるのだということを感じて書いていた。

また一方で、「言ってもらいたい言葉・言ってほしくない言葉」「大きなリンゴ小さいリンゴ」などの道徳の学習を通して、相手のことを考え、自分の思いと同じように相手の思いを大切に思いやりの心について話し合ってきた。



② 特別活動との関連



2学期の始めに、クラス目標「なかよく・やさしく・明るく」をみんなで振り返り、自分は何ができるかを具体的に手型に書き、機会を見つけて話し合ってきた。また、「ありがとうの木」で友達に“ありがとう”を伝え合うことで、互いの良さを認め、思いやる気持ちが出てきていると思う。さらに、友達と活動する喜びや協力の大切さを実感して欲しいとの願いから、学級活動にAFPYを取り入れ、活動の度に振り返りを行った。振り返りの中で子どもたちは「みんながいろんなアイデアを出しあってくれた」「みんなが支えてくれて嬉しかった。」「みんなできて良かった。」と書いていた。

(2) 体験の生かし方について

本時の導入部分で、AFPY活動「こおりお手玉」の写真を提示し、友達を助ける時の気持ち、友達に助けられた時の気持ちを発表してもらった。子どもたちはその時の自分の気持ちを想起し、資料の主人公の気持ちにより共感でき



たのではないかと思う。

また、生活科のあきまつりの準備などを通して、友達と話し合い、助け合いながら自分達のお祭りを作りあげ、多くのお客さんに来てもらったことは、子どもたちにとって大きな自信となったようだ。プリントや発表の中にも、助け合いの良さを実感する発言が多く見られた。

(3) 中心発問について

“「やっち、いっしょにいこうよ。」と呼びかけたゆっきの気持を考えよう”というのが本時の中心発問であった。ここで子どもたちに気づいて欲しかったことは、迷いながらもやっちを助けることを選んだゆっきの気持を考えることにより、助ける喜びや、助けることで自分の心も豊かになっていく点であった。発表や役割演技、吹き出しプリントを書くことを通して、子どもたちは先のおりお手玉の体験も含めて、ゆっきとやっちの心情を自分のこととして考え、助け合うことの喜びや素晴らしさに気づくことができたと思う。

〈吹き出しプリントより〉

ゆっき：ありがとうってってもらってうれしいな。

やっち、だいじょうぶ？たすけてあげてよかったな。

やっちを一人になんかするわけないよ。ぼくたちは親友だものね。

やっち：あーあ。あんなこと言わなきゃよかったな。お礼も言うぞ。

お手紙もあげるよ。うれしいな。

やさしいな。ぼくもこんど助けてあげるからね。

助けてくれてありがとう。おかげでおなかが痛くなくなったよ。

友だちってこんなにやさしいんだね。



さらに、「こころのノート」に友達に言ってもらって嬉しかった言葉を書くことで、これまでの友達のかわりを振り返り、自分の内面を見つめる姿が見られた。現実の自分へと視点を通し、友達と仲よく助け合っていくために自分はどうしたらいいかを考えていくことができたと思う。



〈こころのノートより〉

- ・かけ算に合格した時、友達に拍手してもらって嬉しかったです。
- ・ありがとうカードを書いてもらった時、お返しをしたくなりました。
- ・「走るの早いね。」と言ってもらった時、パワーが出ました。

7 今後の課題

本時では資料を配布せずに、ペープサートと場面絵を用いて物語を読んでいった。黒板に貼られた主人公の絵を見て、すぐに「ゆっきは何か困っているのかな。」とつぶやいた児童がおり、物語を聞かなくても子どもたちの中には様々にイメージが広がっていることに驚きを感じた。そして、低学年の子どもにとってこうした視覚的な手だては、資料の世界を豊かに想像し、道徳的想像力を高めていく上で効果的であると思った。1学期の道徳では、否定的立場の意見が出にくく、偏りやすい傾向があったのだが、本実践の中で、主人公の迷いに共感する意見も出て、A F P Y活動やありがとうの木などの様々な体験や実践を通じて、子どもたちの道徳的心情が深まってきていると感じた。

子どもたちが安心してそこにいることができる環境作りと、互いの存在を意識しあえるたくさんの体験が子どもたちの感性を豊かにしていく。今後も安心できる環境作りに努め、A F P Y活動などの体験学習を効果的に取り入れていき、一人一人が学級の中で生き生きとすごすことができる学級をつくっていきたい。

また授業においては、児童の実態に応じた資料の活用、発問や資料の提示の工夫など、多様な展開を取り入れることで、児童の道徳的心情を更に深めていきたい。